

● AYAピアサポーターをめぐる課題・背景にあるもの ●

● ピアサポートの効果 ●

- 気持ちの**共有** → 双方への効果
 - 仲間との**出会い** → 孤独感、疎外感の開放
 - 体験**整理** → 自己コントロール感の回復
- ※ピアサポーターは自治体が**管理が多く、運営が統一されていない**

● AYAの特徴（課題） ●

- 罹患者数が**希少** → 出会う機会が少ない
- 診療科が**多様** → 診療形態が異なる
- 社会背景が**多様** → 相談ニーズが多様
- 時間、場所の**移行期** → 転居がある

● 患者団体の運営課題 ●

- 活動規模が**多様**
- 財政基盤の**せい弱さ**、活動の**継続性**
- 支援者の年齢的な**更新性**
- 活動場所、地域、形態が**多様**
- **（事務所住所）**の開示不可な団体
- ピアサポート研修も**多様、機会も少**

● AYAピアサポートの方向性 ●

- 院内だけでニーズ対応、**ピアマッチング**する難しさ
- 窓口が点在、事務的対応力に差
- 1 団体で全てを持続的にケアする困難さ
- 相談の質を担保する仕組み、研修

- **全体でニーズ対応**
- **窓口の一本化**
- **集約化と共有化**
- **AYAピアサポーター研修**



● AYAピアサポートの方向性 ●

- 全国に点在している**AYAピアサポーターを集約化**、多様な相談ニーズに**オンラインで対応**する。
- 医療機関と地域、オンラインでのピアサポーターを連携させ、情報の集約化と活動の均てん化を図り、継続できる仕組みを作る。